

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立沼間中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

全国・県と比較して  $\pm 5\%$  の差が見られる内容について中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用してください。

## 【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

●全国・県とほぼ同じ正解率であった。ただし、言葉に関わる基本の知識の定着をより図るようにする必要があると考える。

《話すこと・聞くこと》

- 「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題においては、全国・県の正解率に比べて10%以上高かった。学習用端末を使用しての発表活動を効果的に行えている成果と考える。
- 「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」問題においては、全国・県の正解率に比べて7%以上低かった。全体的な「国語」の回答とも関わるが、「自分の考え」を「記述式」で回答することを苦手としている生徒が多いと考える。普段の授業でも、「紙ノート」と「学習用端末」のいずれか生徒自身が選んで学習の記録（板書等）をとらせているが、それも影響していると考えられる。

《書くこと》

- 「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く」問題においては、全国・県の正解率に比べて7%以上高かった。「記述式」の回答率は全体的に低かったが、1年次から「はがき（手紙）の書き方」の指導している成果であると考えられる。
- 「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する」問題においては、全国・県の正解率に比べて20%近く低かった。最初に述べた「言葉に関わる基本の知識の定着」ができていない結果と結びついていると考える。

《読むこと》

- 「物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する」問題においては、全国・県の正解率に比べて5%近く高かった。「読むこと」に関しては、全体としても5%近く高く、読解力の養成はある程度できているものと考えられる。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問で、「1 当てはまる。」と答えた生徒が36.6%で全国平均47.8%より低かった。教科の目標の一つでもある「国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」意識の醸成を普段の授業から図る必要がある。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が14.1%で全国平均25.4%より低かった。学習集団の状況も大いに関係があるので、生徒実態に合わせた学習目標とそれに準じた

学習課題の設定、「分からない」ときに生徒が質問でき、それに授業者が答える時間や環境の確保を行っていく必要がある。

## 【 数学 】

### 《数と計算》

- 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題では正答率が38.0%で、全国正答率45.2%より低かった。無回答数も少なくなく、考えて解決しようとする粘り強さ、考えたことの表現方法に課題があると考ええる。

### 《図形》

- 「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」問題では正答率が52.1%で、全国正答率58.1%より低かった。既習事項の定着に課題があると考ええる。

### 《関数》

- 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題では正答率が33.8%で、全国正答率38.0%より低かった。関数的な捉えに課題があると考ええる。

### 《データの活用》

- 「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題では、全国平均・県平均どちらも5%以上上回った。また、データ活用の問題では全区平均をすべて上回る結果であった。

### 《生徒質問紙 算数に関する質問》

- 「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が19.7%で全国平均30.1%より低かった。
- 「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が12.7%で全国平均21.1%より低かった。

## 【 理科 】

### 《「エネルギー」を柱とする領域》

- どの問題も全国と同等以上の正答率であった。

### 《「粒子」を柱とする領域》

- 「なぜ精製水を使うのか」を問われた問題では全国より正答率で6%上まわったが、他の問いは全国の前答率を若干下回った。

### 《「生命」を柱とする領域》

- 「呼吸をする生物」について正答率が25.4%しかなく、全国を4.3%下回った。

### 《「地球」を柱とする領域》

- 「ふり返りを読んで。予想をする」問題では、全国に7.9%届かなかった。

○「気圧を利用している例」を選択する問題は、77.5%の正答率で全国を上回った。

《児童質問紙 理科に関する質問》

- 「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が15.5%で全国平均26.1%より低かった。
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が15.5%で全国平均22.8%より低かった。
- 「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が49.3%で全国平均40.3%より多かった。
- 「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が35.2%で全国平均26.3%より多かった。
- 「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が26.8%で全国平均22.9%より多かった。

◎生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が52.1%で全国平均の40.7%より多かった。
- 「友達関係に満足していますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が67.6%で全国平均56.4%より多かった。
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が35.2%で全国平均27.4%より多かった。
- 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が25.4%で全国平均11.7%より多かった。
- 「1. 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が80.3%で全国平均29.5%よりかなり多かった。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が39.4%で全国平均の46.6%より低かった。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問で、「1. 当てはまる」と答えた生徒が19.7%で全国平均33.8%より低かった。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

全国と比較して、自己肯定感をもっている生徒数が過半数以上いると考えられる。また、地域の大人たちに支えられながら生活できている生徒が4人に1人おり、子どもたちと大人が繋がる場面が多くあり、みんなで子どもたちを育てるという意識が高い地域性がある。

学習面においては、学校全体で“教える”から“伴走する”に転換した研究を進めていることから、自らで学び方を調整する点では意識づけできているようにうかがえる。一方で、アンケート結果より、先生への承認欲求や、教えてもらえないという生徒の不満感もあることがうかがえるので、生徒一人ひとりと対話をしながら、学び方を学ぶ誰一人として取り残さない授業研究を行っていききたい。

ICT 機器の活用についても全国平均をはるかに上回る結果で、職員全体の活用率が上がっている。今後は、ICT 活用スキル向上と、学習内容の落とし込みは必ずしも比例関係にはないと考えられるので、教材教具としての ICT 活用の在り方を考えていきたい。